



# Close Up YNU 2019

大学との「絆」をより深める、コミュニティマガジン

## グローバルエクセレンスな大学を目指すYNU

### 常盤台インターナショナルレジデンス落成!

同日行われた落成記念式典での関係者集合写真



2 019年2月28日、本学キャンパス内に、日本人学生と外国人留学生の共同生活による多様な文化体験や交流促進を目標とし

た新しいタイプの学生寮「常盤台インターナショナルレジデンス(常盤台IR)」が落成しました。(2019年3月29日より供用開始)

民間活力により建設・運営を行うこの宿舎は、21世紀グローバル新時代に競争力を備えたグローバルエクセレンスな大学を目指す本学の取り組みの一環として整備されました。シェアユニットタイプ(112戸)は、国籍や学年・学部の異なる8人で1つのユニットを形成し、リビングやキッチンを共用するシェアハウス型の住まいで共同生活を送ります。シェアユニットタイプの他には、完全個室型のプライベートタイプ(166戸)があり、研究者向けの宿泊施設(23戸)も併設されます。本取り組みをはじめ、本学は今後も外国人留学生や外国人研究者の受け入れ環境をより充実させ、さらなる国際交流の発展を目指します。



### 長谷部勇一学長が横浜国立大学長に再任

**横** 浜国立大学学長選考会議は、次期学長として、長谷部勇一学長の再任を決定しました。任期は2019年4月1日~2021年3月31日の2年間です。長谷部学長は、本会議で定めた「求められる学長像」に掲げる3つの資質能力を十分に備えており、国際水準を有する研究大学を目指し大学改革を力強く推進する者であると認められ、学長に最も相応しいと判断されました。

### 横浜市立大学と横浜国立大学が相互協力・連携協定を締結

**横** 浜市立大学(YCU)と横浜国立大学(YNU)は、2019年2月27日、学術研究、教育等における相互協力、連携体制を構築することを目的として、「相互協力・連携協定書」を締結しました。

横浜市立大学と横浜国立大学との間では、これまで研究推進に関する連携のほか、留学生の就職促進に関する協働プログラム、さらには横浜市内の他大学とともに、FD(Faculty Development)・SD(Staff Development)に関わる研修や単位互換制度の実施等、個々の分野における様々な協力・連携を行ってきました。これらの取組を包括し推進するため、連携協定を締結、今後「連携推進会議」を開催し、両大学の事業協力に必要な事項について協議等を進めていきます。



窪田吉信横浜市立大学長(左)と長谷部勇一横浜国立大学長(右)の協定調印式の様子

### 「大学ブランド・イメージ調査」にて、本学がランキング上昇率および「地域貢献」因子で首位に

**株** 式会社日経BPコンサルティング「大学ブランド・イメージ調査 2018-2019」(首都圏版)が2018年11月28日に発表され、本学が前回からのブランドランキング上昇率および「地域貢献」因子で首位に輝きました。

本調査は全国主要大学9地域456校について、各地域に在住のビジネスパーソン、中学生以上の子を持つ父母、教育・研究機関従事者を対象(有効回答者数約42,000人)に、各大学の認知やイメージなどを尋ねたものです。

首都圏の主要大学120校における「大学ブランド力(49のブランド・イメージ項目の得票率を束ねて算出した総合スコア)」において、前回17位から今回14位に上昇し、上昇率ではトップとなりました。また、49項目のイメージを、関連性の高いイメージ群で6つの因子にグループ分けした因子分析においては、本学が「地域貢献」因子の1位でした。

詳細は、本学公式ウェブサイトニュース記事 <https://www.ynu.ac.jp/hus/koho/21208/detail.html> より、日経BPコンサルティング調べ「大学ブランド・イメージ調査 2018-2019」【首都圏編】リンクをご覧ください。

## ニッパツからの寄附金を活用した横浜国立大学陸上競技場走路改修の完成

**日** 本発条株式会社(横浜市 代表取締役社長 茅本隆司)からの寄附金を一部充当して行われた本学陸上競技場直走路の改修整備が、2018年9月末に完了しました。

同年10月5日に陸上競技場完成記念式典を挙行し、ニッパツ所属の宮坂楓選手(三段跳)、平加有梨奈選手(走幅跳)らが式典

に参加しました。

また、本学とニッパツは、スポーツに関する新たな覚書を締結し、オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運の醸成やアスリートの強化支援等に取り組むことといたしました。

本学は、一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との協

定書に基づき、オリンピック・パラリンピック競技大会機運の醸成等を目的とした連携に取り組んでおります。



完成した陸上競技場

## 活連携に関する協定書締結



### YNUの地域連携 - 地域との繋がりを強化 -

## 南足柄市との包括連携協定を締結

**本** 学は、南足柄市との包括連携に関する協定を締結することに合意し、2018年5月15日、南足柄市役所において締結式を行いました。本協定は、地域の課題解決及び大学の教育・研究機能の向上を図り、もって地域社会の発展を図ることを目的としています。

加藤修平南足柄市長(左)と長谷部勇一横浜国立大学長(右)

締結式には、本学から長谷部勇一学長、梅野匡俊学長特任補佐、林田昌也客員教授が出席し、南足柄市からは、加藤修平市長をはじめ、関係の皆様にご出席いただき、和やかな雰囲気の中で協定書へのサインが行われました。

今回の締結により、連携関係をより充実・強化することが期待されます。

## 地域の産官学による「ダイバーシティ連携協議会KT」発足!

**2** 018年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に本学と共同実施機関の大成建設株式会社・帝人株式会社が採択され、地域の機関と協働する「ダイバーシティ

連携協議会KT」を発足させました。本事業は、多様性によって優れた研究を生み出すため、各機関・地域の特色を生かし、女性研究者・技術者の活躍推進や若手研究者の育成およびキャリアパスの構築を目的としています。協議会を中心とした共同研

究、ワーク・ライフ・バランスに配慮した環境整備、次世代の研究者・技術者の育成に取り組めます。

本協議会は、活動を展開していくため、趣旨にご賛同いただける機関を募集しています。随時加入可能で、費用は無料です。

## 横浜若葉台の『大規模団地再生』の実現に向けた取組に横浜国立大学が参画

### ーモビリティと連携したまちづくりの推進に係る協定を締結ー

**横** 浜市旭区内の大規模団地である横浜若葉台では、将来にわたって選ばれ続けるまちとして持続させることを目的として、住民が主体となって策定した『横浜若葉台みらいづくりプラン』を推進しています。このたび、まちづくりの新しいパートナーとして、本学都市イノベーション研究院、同COIサテライトが

加わり、モビリティ(移動可能性)の向上や確保の取組と連携したまちづくりの推進に係る事業協定を締結しました。

センター・オブ・イノベーション(COI)プログラムは、文部科学省・科学技術振興機構が主催する、10年後の目指すべき社会像を見据えたビジョン主導型のチャレンジング・ハイリスクな研究開発を平成25年度

から最長で9年度支援するプログラムです。本学COIサテライトは、九州大学を中核機関とする『持続的共進化地域創成拠点』のサテライトとして、交通(モビリティ)部門を担当しており、「自家用車依存からの脱却による環境負荷削減と地域再生」を目標に、地域密着型の包括的な活動・移動支援に関する研究開発を行っています。

## 都市科学部 104 スタジオオープニングセレモニーを開催

2019年1月16日、都市科学部講義棟(教育学部講義棟8号館)にて都市科学部104スタジオのオープニングセレモニーを開催しました。セレモニーでは、改修のデザインを担当した教員から、設計の趣旨と活用方法について紹介がありました。キャンパス全体のマスタープランの中に都市科学部の活動場所を位置づけ、屋外空間を設けることで、外との連続性と開放性

をもたせたこと、黒板とホワイトボードの大きな壁面は、そこに残るプロセスや交流風景がキャンパスの生きた活動の様子として公開される狙いがあること等の説明がありました。

文理融合の学部ということを強く意識して入学した都市科学部生からは「学科・学部を超えて交流できる場所がほしい」との意欲的な要望が寄せられており、スタジオの完成後、さっそくキャンパスや地域の課題

解決について話し合っている学生たちの姿が見られました。

今後、この104スタジオやロビー空間が有意義に活用され、文理融合という都市科学部の特色が大学全体へと広がっていくことが期待されます。



## 国際REPORT T.I.M.E. Association 年次総会2018に参加

本学平塚和之学長補佐(当時)・環境情報研究院教授と下野誠通工学研究院准教授が、2018年10月3日から5日にかけてブラジルのサンパウロ大学で開催されたT.I.M.E.

Association 年次総会2018に参加しました。

T.I.M.E. Association

(Top Industrial Managers for Europe Association)は、ヨーロッパの世界トップレベルの大学を中心に組織される工学分野の大学院ダブルディグリープログラムに関する枠組みであり、本学は2018年より、日本の国立大学としては東北大学に次ぎ2番目に正式加盟しています。

10月3日午前にはサンパウロ大学を訪問し、大型水槽実験施設の制御実演と船体シミュレータの動作実演など最先端研究施設でのデモンストラーションを見学しました。同日午後には、

T.I.M.E.が主催したサンパウロ大学の学部生向けの大学紹介フェアに参加し、本学への留学制度などを広く紹介しました。4日はT.I.M.E.年次総会に出席し、加盟大学における工学分野の教育に関する発表を聴講すると共に、参加者との情報交換を行いました。5日午前は基調講演を聴講し、来年以降の国際連携について広く議論を行いました。次回の年次総会は2019年10月にセントラルスペレック、パリ・サクレー大学において開催される予定です。

## ボリビアのガブリエル・レネ・モレノ国立自治大学との大学間交流協定調印式

南米ボリビアのガブリエル・レネ・モレノ国立自治大学と学術交流協定を、2018年10月1日に締結しました。ボリビアで行われた調印式には、ガブリエル・レネ・モレノ国立自治大学より、Benjamín Saúl Rosas Ferrufino学長、Oswaldo Ulloa Peña副学長が出席され、本学より学長特任補佐・藤掛洋子都市イノベーション研究院教授が出席しました。また、JICAボリビア事務所小原学所長が来賓として出席されました。

調印式の第二部では、ガブリエル・レネ・モレノ国立自治大学経済学部Juana Borja Saavedra教授が、「大学と国連・国際NGOと連携した社会開発の取り組み」について紹介し、本学の藤掛教授が、「ラテンアメリカ・パラグアイにおける社会開発プロジェクトの課題と可能性」というタイトルにて講演しました。最後に本学のグローバルスタディー

ズプログラム参加学生(パラグアイSV渡航)が「パラグアイにおける国際協力の取り組み」について紹介し、学術交流協定の調印式を締めくくりました。また、この調印式ではガブリエル・レネ・モレノ国立自治大学・学生テレビ局による取材が行われました。

調印式後に開催された懇談会では、両大学の今後の連携の可能性について意見交換を行うことができました。Alberto Careagua Jesús顧問、Ramos Herrera教授、Juana Borja Saavedra経済学部教授、Marta Eugenia Duran Guerrero社会労働部部長をはじめ、多くの関係教員・研究者が出席されました。最後にJICAボリビア事務所小原学所長ならびにJICAボリビア・サンタクルス事務所中島敏博企画調査員による情報共有がなされ、有意義な懇談会となりました。

## YNUの産学官連携、企業との協定及び共同プロジェクト一覧(2018年度・一部抜粋)

本学では、主に社会課題の解決及び地域社会の持続的な発展に資することを目的に、多数の企業・団体との産学官連携や共同プロジェクトに取り組んでいます。

地域に信頼され、地域に支えられ、地域の発展を支援するという、横浜国立大学の地域戦略における3つの精神を軸に、本学の研究力や教育力を地域問題解決へ還元し、積極的に地域連携活動を推進していきます。

**中日本高速道路株式会社東京支社との協定(2018年5月)**  
これまでの技術的な連携活動に加え、今回新たに地域の特性を活かした共同活動・研究に基づく沿線地域の活性化を目的

**京浜急行電鉄株式会社との協定(2018年7月)**  
沿線地域における高齢化や人口減少などによる交通課題について、京急電鉄が、沿線で長年培ってきたまちづくりのノウハウと、本学が積み重ねた交通に関する研究実績と経験を融合させ、新しい交通システムを構築し、沿線地域の交通課題の解決および持続可能な郊外住宅地を実現することを目的

**株式会社横浜銀行との協定(2018年10月)**  
地域経済の持続的な成長・活性化に貢献するため、相互の人的・知的資源の交流を図り、幅広い分野で教育・研究・社会貢献活動により、地域の諸課題解決に資することを目的

**タスクフォース社と横浜国立大学との共同プロジェクトがスタート(2018年5月)**  
本学と地元横浜市を本拠とする企業株式会社タスクフォースは、公益財団法人横浜企業経営支援財団(IDEC横浜)の仲介により、本学が研究開発してきたビジネスゲーム開発運用システムに関する研究成果をもとに、次世代のビジネスゲームプラットフォームの実現にむけた共同研究プロジェクトをスタート

**NECと横浜国立大学、民間主体のまちづくり「エリアマネジメント」の共同研究(2018年7月)**  
日本電気株式会社と本学COIサテライトは、民間主体のまちづくり「エリアマネジメント」に関する共同研究を開始

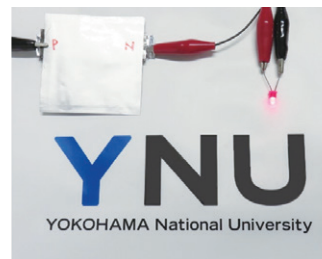
蓄電池高性能化によるエネルギー問題解決などの分野で活躍する藪内直明教授と、体育授業の質の向上に実践的に取り組まれている梅澤秋久教授の研究をご紹介します。

## 化石燃料に依存しない エネルギー社会の構築に向けて

大学院工学研究院 藪内 直明 教授

**産** 業革命以降、社会を支えるエネルギーの主役は化石燃料でした。しかし、世界中で化石燃料の使用量の増加を一因とした環境問題が深刻な問題として顕在化し、今、世界中で化石燃料から電気エネルギーへのシフトが急速に進んでいます。その代表といえるのが、リチウムイオン蓄電池を搭載した電気自動車になります。世界初の市販電気自動車が2010年に日本で発売され、2018年にはなんと、前年度比64%増となる200万台以上の電気自動車が販売されました。しかし、その結果、電気自動車には欠かせないリチウム資源の価

研究室で開発中のリチウム、コバルト、ニッケルを必要としないナトリウムイオン電池



格高騰が世界中で進み、さらに、このペースで電気自動車の市場が拡大すると、電池に利用しているコバルト・ニッケル資源が不足するとされています。一方、エネルギー源としては太陽光発電のコストが大きく低下しており、中東などの国では火力発電よりも圧倒的に安いコストで電気を作ることができるようになってきました。このような自然エネルギーの活用には欠かせないのも電気エネルギーが貯蔵可能な蓄電池で、より低コストなものが求められています。研究室では、上述したリチウム、コバルト、ニッケルといった元素を必要

としない、ナトリウムを使った高性能蓄電池の開発を進めており、わずか3分で80%充電可能な電極材料なども発見しています。今後、このような蓄電池が電気自動車や自然エネルギーの貯蔵に利用され、化石燃料を必要としないエネルギー社会実現への一助になると期待できます。

YABUCHI Naoaki

大学院工学研究院

研究分野：固体材料化学、  
固体電気化学



## ダイバーシティ・インクルージョンの体育を求めて

教育学部 梅澤 秋久 教授

**新** 学習指導要領において体育科は「豊かなスポーツライフ」の実現に向けた教科となっています。スポーツ庁は2017年に第2期スポーツ基本計画を策定し、日本ではウォーキングやダンスなど競争を伴わない身体活動Physical Activity (UNESCO, 2015)も広義のスポーツと捉えるようになりました。

日本の成人のスポーツ実施率(2018)の現状は、週1回以上で51.5%です。大学入学後のスポーツ実施率の低い学生ほど、体育で「できなかった」「競技で迷惑をかけた」という苦い経験を語る傾向も明らかになってきました。

他方で、21世紀の「良質の体育(Quality PE)」(UNESCO, 2015)の中核の一つはインクルージョンとされています。つまり、障害の有無、性差(LGBTQ含む)、国籍や出生、体力/運動格差等の「ちがひ」を包括し、互いのよさやできることを最大限に生かしつつ、スポーツの特性を味わい合うダイバーシ

ティ・インクルージョンの体育授業が求められているといえるのです。

私は、「良質の体育」のもう一つの核である「身体的リテラシー」の育成に資する共生体育を提唱しています(図)。全ての子どもたちに「ちがひ」が存在するのは当然です。教師が運動部活動のような画一的なルールで勝利を目的とした体育授業をすれば、格差の低水準児は、無視をされるか、自主的に「空気」のように振る舞い、スポーツから逃避していきます。

そこで、アダプテーション・ゲームを提案し、附属学校等協力校で実践研究を推進しています。はじめのゲームで負けたチームが、自分たちも相手も本気で愉しめる「アダプテーション(適合)ルール」を提案し、実践するという共生的な体育の学び合いです。子どもたちが主体的・インクルーシブにスポーツをカスタマイズし、その運動の特性を味わう深い学びにつながっています。

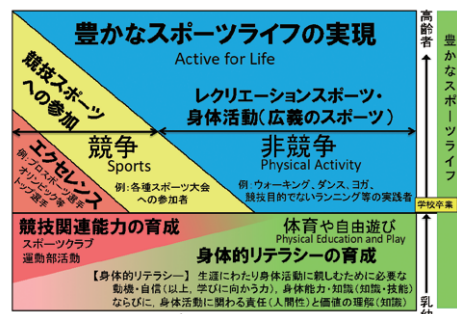


図 身体的リテラシーとスポーツライフの関係

UMEZAWA Akihisa

教育学部

研究分野：体育科教育学・  
スポーツ教育学



**窓**

本学の研究情報発信の取り組みをご紹介します。

津村明子 研究推進機構

【まど】 特任教員(講師) / リサーチ・アドミニストレーター

研究広報の一環として、世界最大規模の科学イベントともいわれる AAAS (American Association for the Advancement of Science: アメリカ科学振興協会) 年次大会へ参加し、日本国内の他大学・研究機関と共同ブースを出展しました。研究者・ジャーナリスト・政策立案者・一般市民等の参加者が集う国際的な場で本学の研究の魅力を伝えることができました。

研究推進機構の活動についてもっと知りたい  
→「横国 研究推進」で検索



## 第15回神奈川産学チャレンジプログラムで本学の5チームが入賞!

パシフィコ横浜にて2018年12月18日、第15回神奈川産学チャレンジプログラムの表彰式が開催されました。

神奈川産学チャレンジプログラムは、一般社団法人神奈川経済同友会によって毎年開催される課題解決型研究コンペです。同友会所属企業が経営課題に関する研究テーマを提示し、これに対して学生チームが企業の指導も受けな

がら研究レポートを提出するもので、地域企業と大学のゼミ・研究室が協働して実施する実践的な教育となっています。今回は34社が提示したテーマに、神奈川県内から20大学200以上のチームが参加し、本学からは10チームが参加、1チームが最優秀賞及び特別賞、3チームが最優秀賞、1チームが優秀賞を受賞しました。

学生の今後のさらなる活躍に期待しましょう!



## モダンダンス部が全日本高校・大学ダンスフェスティバルで4年連続受賞

2018年8月に開催された第31回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)にて、本学モダンダンス部の作品「破面」が奨励賞を受賞しました。今年度の受賞によってモダンダン

ス部は4年連続受賞を果たしました。

<モダンダンス部からのコメント(抜粋)>

「全日本高校・大学ダンスフェスティバルは創作ダンスの甲子園と言われるほどの大きな全国大会であり、このような大会で受賞出来たこと、本当に嬉しく思います。

今回の作品「破面」は、現代社会で人々を取り巻く様々な情報(身体的・社会的・精神的特徴)によって思い込みや偏見を抱き、そういった外面的な情報をもとに「そういう人だ」と決めつけてしまっている現状に私たちが疑念を抱いた

ことから生まれた作品です。他者からの思い込みや偏見によって抑圧され、知らず知らずにも他者に付けられてしまっている“面”。その面を破り、自分の本質を強く持ち続けようとする、現状を破り続けていく姿を伝えた作品です。“面”をモチーフに様々な動きやリフト(人を持ち上げること)、表現、構成、音楽、衣装を工夫し、総勢17名で舞台上がる最後の最後まで全力で悩み、チーム一丸となって臨んだ全国大会でした。そういった様々な過程が結果に結びついたのでないかと思っています。」



## 学生課外活動表彰式の実施

2019年3月19日、課外活動で優秀な成績を収めた学生・団体へ、長谷部学長より表彰状が贈られました。

Awards ceremony

2018年度課外活動成績優秀者一覧 ※学生の学年は表彰当時

団体名	学生氏名	主な出場大会	成績
陸上競技部	青柳良英(理工学部修士1年)	第32回国公立26大学対校陸上競技大会(平成29年9月開催) 第33回国公立27大学対校陸上競技大会(平成30年9月開催)	対校男子1500m 優勝 対校男子1500m 優勝
	中野彬徳(理工学部4年)	第66回関東甲信越大学体育大会(平成29年8月開催) 第67回関東甲信越大学体育大会(平成30年8月開催) 第66回関東甲信越大学体育大会(平成29年8月開催) 第67回関東甲信越大学体育大会(平成30年8月開催)	陸上競技の部 男子100m 優勝 陸上競技男子100m 優勝 陸上競技の部 男子200m 優勝 陸上競技男子200m 優勝
硬式野球部	高橋千仁(教育人間科学部4年)	2018年度神奈川大学野球連盟春季リーグ戦1部リーグ(平成30年9月)	首位打者及びベストナイン(捕手)
水泳部	山崎雅幸(理工学部4年)	第90回関東学生選手権水泳競技大会(平成29年8月開催) 第91回関東学生選手権水泳競技大会(平成30年8月開催)	100m平泳ぎ 2位 100m平泳ぎ 2位
	神田莉央(理工学部3年)	第90回関東学生選手権水泳競技大会(平成29年8月開催) 第91回関東学生選手権水泳競技大会(平成30年8月開催)	100m自由形 2位 100m自由形 優勝
モダンジャズ研究会	小寺拓実(都市イノベーション学部修士2年)	第90回関東学生選手権水泳競技大会(平成29年8月開催) 第91回関東学生選手権水泳競技大会(平成30年8月開催)	400m自由形 優勝 400m自由形 2位
		第90回関東学生選手権水泳競技大会(平成29年8月開催) 第91回関東学生選手権水泳競技大会(平成30年8月開催)	800m自由形タイム決勝 2位 800m自由形タイム決勝 優勝
モダンダンス部	山下正紘(教育人間科学部3年)	"2018Walnut Valley Festival National Bluegrass Banjo Championship (全米ブルーグラスチャンピオン大会)(於 米国 カンザス州 平成30年9月開催)" SUZUKI JAPAN CUP 2016 第33回全日本エアロビック選手権大会 中部地区大会(平成28年10月開催) SUZUKI JAPAN CUP 2017 第34回全日本総合エアロビック選手権大会 東日本地区大会(平成29年8月開催) 第18回全日本学生エアロビック選手権大会(平成30年8月開催) 2018年 第2回富士山エアロビックカップ(平成30年7月開催)	2nd place シニア男子シングル部門 優勝 シニア1男子シングル部門 準優勝 学生男子シングル部門 優勝 シニア1男子シングル部門 優勝
準硬式野球部	団体表彰 (同部代表 寺澤弘太郎(経済学部2年))	第66回関東甲信越大学体育大会(平成29年8月開催) 第67回関東甲信越大学体育大会(平成30年8月開催)	準硬式野球の部 優勝 準硬式野球の部 優勝
	原科太一(経営学部4年)	第二十二回関東学生スポーツチャンバラ選手権大会(平成29年7月開催) 第二十三回関東学生スポーツチャンバラ選手権大会(平成30年7月開催) 第44回全日本選手権大会(平成30年8月開催) スポーツチャンバラ第二十五回全日本学生選手権大会(平成30年10月開催)	有段男子権長剣 優勝/男子グランドチャンピオン獲得 有段男子権長剣 優勝/男子グランドチャンピオン獲得 二刀 2段以上の部 優勝 有段男子 長剣フリー 優勝
スポーツ チャンバラ 翔剣会	中森唯斗(理工学部2年)	43rd THE WORLD SPOCHAN CHAMPIONSHIP in JAPAN (世界選手権大会) (平成30年12月開催)	二刀 二段以上 優勝/男子の部 国別対抗団体戦 打突競技の部 優勝/上記2部の優勝より 打突競技部門としてグランドチャンピオン獲得
小田垣優衣(教育人間科学部3年)	第44回全日本選手権大会(平成30年8月開催)	短刀の部 ALL 優勝	
坂牧りさ(理工学部3年)	スポーツチャンバラ第二十五回全日本学生選手権大会(平成30年10月開催) 43rd THE WORLD SPOCHAN CHAMPIONSHIP in JAPAN (世界選手権大会) (平成30年12月開催)	有段女子 小太刀 準優勝 レディース長剣フリー 初段以上の部 準優勝	

## PICK UP YNU ウェブサイトコンテンツのご案内

## — 卒業生と学長の対談企画「YNU CROSS TALK」掲載 —

2018年度の学長対談として、卒業生との対談企画を本学ウェブサイト上に掲載中です。今回の企画は、光触媒をはじめとする研究で世界的な科学者として活躍する藤嶋昭東京理科大学第9代学長(本学工学部電気化学科卒業)と、産学連携やグローバルに活躍できる人材育成について意見交換をしています。右記のQRコードからぜひ是非ご覧ください。

## 大学ウェブサイト「YNU CROSS TALK」

☞ [https://www.ynu.ac.jp/special/ynu\\_cross\\_talk/vol.03/index.html](https://www.ynu.ac.jp/special/ynu_cross_talk/vol.03/index.html)



## 卒業生・基金室からのお知らせ

未来を創るYNUとして発展を続けていくためにも、卒業生・修了生の支援が必要です。

横浜国立大学卒業生・基金室では、教育・研究支援や学生支援等に役立てるためのご寄附をお願いしております。ご寄附の申し込みにつきましては、基金室のウェブサイトをご覧ください。

## 卒業生・基金室ウェブサイト

☞ <http://kikin.ynu.jp>

Let's go  
YNU!第14回横浜国立大学  
横国Day (ホームカミングデー)のご案内

横国Dayは、卒業生・修了生、そのご家族、在学生と保護者、教職員(退職者を含む)、また地域の方などの本学関係者がキャンパスに集い、旧交を温めるとともに、新たな親睦を深めることを目的とし、今年度で14回目の開催となります。

横国Dayは、学部や世代、属性の垣根を越えて横浜国立大学を皆で考える日にしたいという想いのもとで、大学の「今」を知ることができるイベントの開催を予定しております。ホームカミングデーは、本学関係者のみならず地域の方々にも開かれていますので、お誘い合わせの上お越しください。



ピアノ演奏



交流会の様子

開催日

2019年  
10月5日  
(土)

## 第14回横浜国立大学横国Day (ホームカミングデー)

詳しくはこちら 横国Dayウェブサイト ☞ <https://www.ynu.ac.jp/about/project/yokokokuday/2019.html>

## 卒業生・修了生の皆様へ データ登録のお願い

本学では卒業生との連携を深めることを目的として、卒業生・修了生の方々に連絡先、就職(進学)先等のウェブによるデータ登録をお願いしています。登録データの使用内容は以下のとおりとなります。

1. 大学最新情報案内のメールマガジンの配信(月1回程度)※希望者のみ
2. 本学ウェブサイトや広報誌等の卒業生インタビューのお願い
3. 卒業生・基金室、校友会、同窓会からの各種お知らせの送付

本趣旨と使用内容をご理解の上、ご賛同いただける場合は、ご登録をお願いします。

**登録方法** パソコンより下記ページにアクセスしてください。

詳しくはこちら 横浜国大ウェブサイト → 「卒業生」 → 「卒業生・修了生データ登録」

## YNUメール(生涯用)のご案内

詳しくはこちら

☞ [www.ynu.ac.jp/about/project/netaddress/](http://www.ynu.ac.jp/about/project/netaddress/)

YNUメール(生涯用)は、本学が卒業生・修了生並びに学生及び教職員に提供している、生涯にわたって利用できるメールアドレスです。本サービスはMicrosoft社「Office365 Education」を利用して、主にウェブメールで送受信を行うものです。ご利用にあたっては、上記のURLよりご申請ください。

個人情報の取り扱いについて  
左記1-3のこと以外の利用および提供は一切いたしません。  
また、関係法令及び本学規則等により  
個人情報として適正に管理し、使用いたします。